

<今朝の聖書から>

【最初の頃の教会】聖書箇所は先週の続きになりますが、これらの記録がどんなふうに使われていたのか、想像してみるのも楽しいことではないでしょうか。教会の歴史は十字架の出来事につづいて始まったといえるでしょう。ですからヨセフやマリヤたちも“主の兄弟ヤコブ（コリント9:5、ガラテヤ1:19）”という人も、ごく身近に感じられたことでしょう。ルカ福音書19章に出て来る、ザアカイも伝説では、教会の中心的奉仕者になったといわれています。彼ら弟子達が説教する時には、自分たちの経験した“主の出来事”を語ったに違いありませんし“自分の事が語られている”と思いつつ、会衆席にいました。福音書は“このままでは知っている人がいなくなる”という中で編集されていったのでしょうか。

【祭司長たちがイエスを手にかける】読み進めていきましょう。43節に“まだ話しておられるうちに”とあるのですから、先週の箇所に引き続いて起こったことです。苦難に立ち向かわれたイエス様に相対したのは、サンヒドリン（議会）のメンバーや群衆、それにヨハネ福音書の18章に同じ記録がありますが、ローマ兵も加わっていることが分かります。

【熱狂的なペテロ】ヨハネによる福音書には“シモン・ペテロは剣を持っていたが、それを抜いて、大祭司の僕に切りかかり、その右の耳を切り落した。その僕の名はマルコスであった（18:10）”と記録されています。今朝の聖書14:47に記された“ひとり”は恐らくペテロのことでしょう。

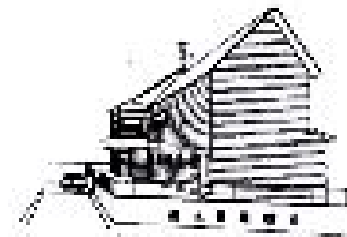
【マルコ】これには何の根拠もないのですが、14:51に出て来る、“若者”はマルコその人だったというふうに使われています。それはどうであっても、主イエスをとらえた人々は“軍勢”といってもよい程のものだったことが分かります。48節で主は、数を味方とするこのような人々に抗議しておられます。キリストに対する統一戦線が出来上がり、誰にも抑えがたいものになっていました。私たちも、どこにも決定権のない、このような力には弱いのです。“皆の意見”とか“私は別として会議の決定だ”という個人に対する圧力はよく経験することでしょう。

【聖書の成就】49節で“聖書の言葉は成就されなければならない”と語られています。イザヤ書53:10の“しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩ませられた”という箇所のことでしょう。

【引照付き聖書】日本語の聖書には、“引照付き”があります。新改訳聖書にはもっと（編集者により）詳しく、その箇所を説明した“チェーン式”というものもあります。福音書どうしの関係を更に理解するためにも、聖書をよく引用された主の言葉を旧約聖書にみるためにも、参考になります。

週報

2010年 10月 3日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042